

1
時限10:30
|
12:002
時限12:50
|
14:203
時限14:30
|
16:00

A 会場

土器から考える古墳時代

青木 敬 教授 専門分野：日本考古学〔古墳時代・古代〕

教科書で学んだ知識だけでは、古墳時代の具体的な時代像を思い描くことは難しいかもしれません。時代像をあきらかにするには、当時の人びとの息吹を伝える史資料を丹念に観察・判読することが不可欠です。今回は、長野県安曇野市穂高古墳群で出土した土器という考古資料を観察し、抽出できる情報を整理します。整理した情報をふまえ、そこからどのような古墳時代像を描くことが可能なのか、皆さんとともに考えたいと思います。

唐詩と「故郷」―白居易の場合―

澤崎 久和 教授 専門分野：中国古典〔唐代〕文学

唐代の詩には、他郷にある詩人が故郷や都長安への望郷の念を詠う作が多く見られます。唐詩における主要テーマの一つといってよいでしょう。ところが、唐代中頃の白居易の詩には、「身心の安らぐところこそわが故郷だ、都ばかりが帰るべき地ではない」といった、従来には見られない表現が何度も登場します。白居易にとっての「故郷」とはどんなところであったのか、その故郷観の特色や後世への影響について検討してみたいと思います。

光源氏はなぜ顔を隠すのか？

―『源氏物語』「夕顔」巻の解釈をめぐる―

竹内 正彦 教授 専門分野：日本中古文学

『源氏物語』は多くの人びとによって読み解かれ、解釈が更新されてきましたが、今なお解釈が揺れている部分があります。たとえば、「夕顔」巻で光源氏は夕顔という女性のもとに顔を隠して通っていますが、その際に光源氏は覆面をしていたのかどうかという問題は現在も解決されていません。本講座では、それぞれの解釈を吟味しながらこの問題について検討し、そもそも光源氏はなぜ顔を隠さなければならなかったのかを考えます。

B 会場

中国の漫才を楽しむ

針谷 壮一 教授 専門分野：中国語学

中国には「相声」と呼ばれる伝統芸能があります。日本の漫才に相当します。この授業では、日本の高校生の皆さんを対象に、中国の漫才を紹介します。中国語の分からない人でも理解できるよう、まず授業の前半で中国語の基礎的な知識をお話しし、続く後半では実際の漫才の映像を見ながら、一つ一つ言葉の意味を解説し、笑いのツボを探っていきます。ボケとツッコミの面白さを味わいつつ、中国語による言葉の芸術を楽しみましょう。

AI玄奘は
サンスクリット語の夢を見るか？

渡辺 俊和 准教授 専門分野：インド哲学、仏教認識論

日本に伝わる「お経」。そのほとんどはサンスクリット語などから漢語に翻訳された仏典であり、翻訳にはアジアの僧たち―「三蔵法師」玄奘もそのひとり―による試行錯誤の跡が見られます。本講座では以下の2点を紹介します：①インドの原典が漢訳あるいは現代語に翻訳される過程；②現在進行中の、漢訳やチベット語訳などを利用しての、散失サンスクリット語原典の復元作業。人間の、何かを伝えようとする情熱に触れてみましょう。

近代日本の選挙運動と政治家家族

手塚 雄太 准教授 専門分野：日本近現代史・日本政治史

現代日本の選挙では、立候補した政治家の家族が自身の日常やキャリアを犠牲にして政治家を支えることが珍しくありません。男性政治家が多い日本では、犠牲を迫られるのは多くの場合女性の配偶者であり、個人に犠牲を強いる選挙運動は新たに議員に立候補しようとする人にとっては高い「壁」になっています。それではなぜ、こうした様子が「当たり前」になった（なってしまった）のでしょうか。この講義ではその歴史的淵源を探るとともに、政治とジェンダーとの関係を皆さんと考えたいと思います。

文学塾申し込み締切 令和5年3月13日(月)

※ A会場とB会場の同じ時限の講義を申し込むことはできません
※ キャンパス受講は、各講座100名に達した時点で申し込みを締め切ります

※ 後日、録画配信を行います（要申し込み）
※ 変更等が生じた場合、大学ホームページでお知らせします